

公益社団法人日本放射線腫瘍学会
2021年度（2021年9月1日～2022年8月31日）事業報告

1. 学会等の学術的会合の開催及び学術研究の支援

- 第34回学術大会を2021年11月12日～14日、オンライン（WEB）開催し、第34回学術大会報文集を発行した。
- 小線源治療部会、生物部会、高精度放射線外部照射部会における学術大会を開催した。
- 優れた学術研究計画の選出を行い、その研究支援および論文投稿の助成を行った。
- 国際交流
 - ・欧州放射線腫瘍学会（ESTRO）とのMOUに基づき学術大会共催講演準備を行った。
 - ・アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）への事務局支援、役員・各委員の派遣を行い、各活動支援を行った。また、FARO Webinerにおいて講演を行った。
 - ・米国放射線腫瘍学会（ASTRO）への活動支援のためMOU締結の準備を行った。
 - ・IAEA放射線がん治療に関する講演会を共催した。
- がん放射線看護セミナー等の放射線治療に関連するセミナー開催の支援を行った。
- 放射線医学・治療の学術・医療技術の相互理解を深めるため、日本緩和医療学会、日本核医学会等との合同シンポの開催を行った。

2. 学会誌等の刊行

- 機関誌（英文の研究論文集）を年度計6回オンラインにて発刊した。特別企画号発刊準備を行った。
- 世界に向けて広く発信する英文機関誌の普及・向上を目的として、Highly cited award、優秀査読者賞の顕彰事業を行った。
- ニュースレターを年4回刊行した。

3. がん等の放射線治療についての普及、啓発活動

- 放射線治療についての理解・普及を目的として、一般・患者さん向け調査、新聞広告（計3回）を実施した。中・高校にて開始されたがん教育の副教材として昨年作成の放射線治療アニメ動画を、全国の高校へPR・配布し、教員を中心にPR活動等を実施した。また、患者さん向けのリーフレット配布を行った。
- 当学会ホームページに一般向け・医療者向け等のコンテンツを更新し、TOPページの改訂を行った。
- がん放射線治療の最新情報の広報活動として、プレスカンファレンス（WEB）を行った。
- 医学生・研修医向けにレジナビメール配信や放射線腫瘍学講座の紹介・リクルート動画を作成した。
- 医学生・研修医の自己啓発の場として、医学生・研修医のための放射線治療セミナーを開

催した。

- 研究者等の奨励を目的として、阿部賞・梅垣賞の顕彰事業を行った。
- 地域等の放射線治療の進展を目的として、地域貢献賞の顕彰事業を行った。
- 優れた学術研究課題に対して、必要資金の一部を助成した。
- 放射線治療における優れた研究成果を広く還元することを目的として、関連する他領域の学術団体での発表を支援し助成した。

4. がん等の放射線治療の標準化に資する事業

- 放射線治療従事者への教育を目的として、教育講演を行い、講義コンテンツを掲載した。
- 専門性に特化した教育的事業として放射線生物学セミナー（WEB 開催）、放射線治療・物理学セミナー（WEB 開催）、小児がん放射線治療セミナー（WEB 開催）、若手医師の教育を目的として放射線腫瘍学夏季セミナー（現地/LIVE）を行った。また教育セミナーの運営を標準化するため、共通システムの精査を行った。
- 細胞・分子レベルの放射線治療標準化を目的として、RI 内用療法セミナー（WEB 開催）を実施した。
- 粒子線治療に関し、先進医療の枠組みで治療患者の全例登録を行うとともに臨床研究を推進した。また、先進医療実施施設への施設訪問を行った。粒子線治療全例登録（統一治療方針）によるエビデンス創出に努めるとともに、システムティックレビュー等も行い、さらなる保険収載を目的とした活動を行った。
- がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究を実施し、緩和的放射線治療の普及・標準化を行った。
- 第三者出力線量評価認定制度の開始を目的として、第三者出力線量評価機関認定制度準備委員会にて、第三者出力線量評価認定制度規程、第三者出力線量評価認定作業部会規程を作成した。
- 治療計画の標準化を目的として、MR 画像誘導（即時）適応放射線治療ガイドライン、三叉神経痛治療におけるサイバーナイフの適正使用指針、密封小線源治療 診療・物理 QA マニュアル第 2 版（冊子体）を発行し、IMRT 物理技術ガイドライン改訂版発行準備を行った。また、放射線治療が関係する各種ガイドラインの作成委員派遣及び査読・外部評価を行った。
- 放射線治療計画ガイドラインモニタリング指標に関する研究調査アンケートを実施した。
- JASTRO 略語集の改訂作業、用語集・略語集の整合性確認作業を行なった。
- 放射線治療専門医認定
- 2022 年放射線治療専門医の資格更新ならびに認定作業を行った。
- 第 31 回放射線治療専門医試験の実施ならびに認定作業を行った。
- 日本専門医機構サブスペシャリティ領域認定の準備を行った。

- 放射線治療施設の実態と個々の治療症例の診療内容を調査することを目的として、全国放射線治療実態調査（構造・症例）の見直しを行い、システムの改修を実施した。
- 日本放射線腫瘍学会認定施設
安全かつ高精度な放射線治療を推進することを目的として定める基準を満たす施設の認定を行った。
- 安全な放射線治療を推進することを目的として、依頼のあった医療事故第三者調査を実施し報告書を作成した。
- 放射線治療における品質保証・医療安全の **Quality Indicator** に関する調査を実施した。
- 放射線治療に関する診療報酬制度の適正化と追加・修正を検討し要望活動を行った。そのための様々な医療技術について費用対効果分析の準備を行った。
- 令和4年度（2022）診療報酬改定に関わる諸作業を行い提出した。
- 適切な放射線治療の提供体制の検討と提言を行うため、厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制構築に資する研究」の調査を実施し、全面的に研究支援した。
- 強度変調放射線治療（IMRT）の普及と推進を目的として、医学物理士認定機構他各関連団体と検討・意見交換を行った。
- ¹²⁵I 線源計測課題に関する検討を実施した。
- 強度変調放射線治療（IMRT）と定位放射線治療の標準化を目的として実態調査を行った。
- MR 画像誘導即時適応放射線治療に関する人材育成、研究推進のために第1回 MR 画像誘導適応放射線治療研究会を開催した。
- 全国の放射線治療施設における常勤医師の充足状況、がんプロの放射線治療養成に関する調査を行った。

5. その他当法人の目的を達成するために必要な事業

- 放射線治療における AI（人工知能）の活用等検討を、ワーキングにて行った。
- COVID-19 対策を検討し、2年間の活動報告書を、ワーキングにて作成した。
- 共催・協賛・後援取扱規程、弔事・弔慰金規程、部会通則を新たに作成した。

2021年度（2021年9月1日～2022年8月31日）各委員会活動報告

【事業部門】

■ 編集委員会（委員長：佐々木 良平）

- Journal Radiation Research 誌（以下 JRR 誌）を以下の通り刊行した。
2021年 Volume62(5)～Volume62(6)、2022年 Volume63(1)～Volume63(4)の計6巻を刊行した。
- JRR 誌の2021年の採択率は32%（腫瘍学関係27%、生物学・物理学関係36%）、2020年の採択率は37.5%（腫瘍学関係34%、生物学・物理学関係41%）、2019年の採択率は31.21%（腫瘍学関係30.56%、生物学・物理学関係32%）、2018年の採択率は36%（腫瘍学関係33%、生物学・物理学関係38%）、2017年の採択率は35%（腫瘍学関係27%、生物学・物理学関係41%）2016年の採択率は35%（腫瘍学関係32%、生物学・物理学関係38%）であった。
- 2021年はOncology分野として、237編の査読を行った。
- JRR 誌のインパクトファクターは2.438(2021年)となった(2020年2.724:-10.5%)。尚5年のインパクトファクターは2.857である。
 - ・ IF 順位 53位/94誌 <分野: Biology> ・ IF 順位 92位/136誌 <分野: Radiology, Nuclear Medicine & Medical Imaging>
 - ・ IF 順位 204位/245誌 <分野: Oncology>
- JRR 誌におけるco Editor-in-chief 制設置への要望書の返答として日本放射線影響学会より「“Editor-in-chief” は両学会編集委員長2名表記とする（JRR 編集委員会規程の編集委員長は従来通り1名とし、副委員長の英名“Editor-in-chief”へ改変）」との提案に承諾した。
- JRR 誌の Highly Cited Award (1名) と優秀査読者賞 (2名) を選出した。
- JRR 誌の寺島論文賞を選出した。
- JRR 誌特別号の企画・出版準備を行った。

■ 広報委員会（委員長：岡嶋 馨）

- Newsletter 通巻141-144号(2021年No.3～2022年No.2)を発刊した。(学会会員専用HPにも掲載)
- Journal club No.256～No.262を配信するとともに、学会ホームページ、NLに掲載した。
- JASTRO gram No.1272～No.1326を配信した。
- 2021年9月15日、プレスカンファレンス2021（放射線治療PR事業プレスセミナーと同時開催）をオンラインにて開催した。また2022年9月15日、プレスカンファレンス2022開催を準備した。
- 患者さん・ご家族への説明用パンフレット「放射線治療を受けられる方へ」を広く配布した。
- 特定資金「放射線治療PR事業」として、放射線治療PR記事を掲載したメディア（新聞・WEB）とのタイアップ広告（計3回）、及び前年度作成の動画（アニメ）をがん教育の教材として全国高校へPR・配布した。また「健康成人を対象（約3000人）にしたがん治療に関する知識・情報量、治療イメージ等に関するWEB調査」「高校教員へのアニメ視聴に関するWEBアンケート」を実施し、マスメディアへプレスリリース配信を実施した。また、次年度特定資金「放射線治療PR事業」の企画（コミック応募、市民公開講座、動画等）を検討した。
- 学会ホームページTOPを中心にリニューアルを実施した。

- 一般向けの粒子線治療に関する書籍の発刊を企画した。
- 学会ホームページの運用規定を策定した。

■ 教育委員会（委員長：内田 伸恵）

- 2021年9月4日、2022年1月29日がん放射線治療看護セミナーをWEBで、2022年5月21日WEBと現地のハイブリッドで日本がん看護学会と共催した。
- 2021年9月18日、小児がん放射線治療セミナーを、伊井憲子世話人の元、WEB開催した。
- 2021年11月、第34回 JASTRO 学術大会（WEB開催）にて教育講演を行った。
- 2021年12月、2022年5月、7月WEB会議にて教育委員会を開催した。
- 2022年2月12日、放射線生物学セミナーを、松尾政之世話人の元、WEB開催した（生物部会と共催）。
- 2022年6月18日、放射線治療・物理学セミナーを、田代 睦世話人の元、WEB開催した。
- 2021年度優秀教育講演者3名を選出した。
- 2022年8月6-7日放射線腫瘍学夏季セミナーを、二瓶 圭二世話人の元、WEBと現地のハイブリッド開催した。
- 放射線治療の医師・メディカルスタッフ（診療放射線技師・医学物理士・看護師）を対象とする「海外研修助成事業」制度の募集は、COVID-19の影響により次年度へ延期とした。
- 2022年8月30日、アジア放射線腫瘍学連盟（FARO）の教育ウェビナーJASTRO担当分を実施した。
- 教育講演のシラバスをホームページ(会員専用HP)に掲載した。（希望者に冊子体を配布）

■ QA委員会（委員長：石倉 聡）

- IMRT物理技術ガイドライン改訂小委員会にてガイドライン改定作業を行った。
- 第三者出力線量評価認定制度の検討を進め、第三者出力線量評価認定制度規程および第三者出力線量評価認定作業部会規程を作成した。
- 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団からの委嘱委員として、医療放射線監理委員会に出席した。

■ ガイドライン委員会（委員長：秋元 哲夫）

- 「MR画像誘導即時適応放射線治療ガイドライン」を査読した。[5学会共同発刊：日本磁気共鳴医学会、日本医学物理学会、日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、JASTRO/冊子体印刷全会員へ配布]
- 日本脳腫瘍学会_成人脳腫瘍編「grade II/III びまん性神経膠腫」診療ガイドラインを査読した。
- 「三叉神経痛治療におけるサイバーナイフの適正使用指針」を査読した。
- 日本脳腫瘍学会「髄芽腫診療ガイドライン」を査読した。
- 「密封小線源治療診療・物理QA マニュアル第2版」を査読した。
- 日本婦人科腫瘍学会子宮体癌ガイドライン作成改訂委員として戸板孝文会員、渡辺未歩会員を推薦した。
- AMED全田班「がん疼痛各論ルールブック」作成委員として中村 直樹会員を推薦した。
- 日本形成外科学会 患者向け乳房再建ガイドブック作成協力委員として淡河 恵津世委員を推薦した。
- 特別予算による放射線治療計画ガイドラインモニタリング指標に関する調査研究のアンケートを実施した。

- ガイドラインの転載等の許諾申請の可否を検討した。

■ がん放射線治療推進委員会（委員長：溝脇 尚志）

- 医学生・研修医のための Advanced オンラインセミナーをオンライン開催した。（2022/5/14 土、ZOOM）
- 第 38 回、第 39 回医学生・研修医のための放射線治療セミナーを、大阪会場（2022/7/2 土、ホテルフクラシア大阪ベイ）と東京会場（2022/7/9 土、上野イーストタワー）で、それぞれ現地開催した。
- 民間医局レジナビのメール配信サービスを用いて広報活動を行った。
- 医学生・研修医のための放射線治療セミナー参加者を対象とする JASTRO フォロワー事業の運用を開始した。
- 医学生・研修医に向けた放射線腫瘍医リクルート動画（予告編、A 編、B 編）を作成した。
- 第 3 回放射性同位元素内用療法セミナーをオンライン開催した。（2022 年 2 月 19 日）
- 全国の大学を対象として、放射線治療に関する教育、診療体制に加えて関連病院を含む医師スタッフの充足状況に関するアンケート調査結果をまとめ、日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会で報告した。
- ダイバーシティ・働き方改革推進に向けて、放射線腫瘍医特有の職場環境に基づく課題を明らかとし改革案を提示すること、および、リクルートおよび離職防止策として共有可能なデータを学会に提供することを出口戦略とし、アンケート調査を実施した。
- 少数勤務医をサポートするための出口戦略を見据えたアンケート調査を実施した。遠隔症例検討・相談の実現に向けて具体的方法を検討した。
- 医学物理・技術スタッフ問題について検討し、厚労科研大西班と連携して対応する方針を決定した。
- 転移性脊椎腫瘍に対する定位放射線治療の普及促進事業を企画・立案した。

■ 放射線治療専門医制度委員会（委員長：古平 毅）

- 放射線治療専門医制度委員会（日本医学放射線学会と共同）を 6 回（2022/2/11 新委員への活動説明と筆記試験問題作成ガイダンス（web 会議）、2022/4/16 前年度問題の確認と試験問題作成のガイダンス（横浜）、2022/5/21、2022/6/10（試験問題ブラッシュアップ会議 東京）2022/8/26、2022/8/27 専門医試験実施と合否判定会議（神戸））、併せて委員会メール審議を適宜開催して、放射線治療専門医に関連する協議、報告、第 31 回放射線治療専門医認定試験問題（筆記問題と口頭試験）の作成、そのブラッシュアップ、受験資格の審査、他（専門医更新審査の確認等）を行った。
- 第 31 回放射線治療専門医認定試験（JASTRO・JRS 共同認定）を、神戸ポートピアホテルで、2022 年 8 月 26-27 日に実施した（応募者 67 名、受験者 66 名）。第 30 回放射線治療専門医受験者 66 名中の合格者 61 名（92.4%）、放射線治療専門医更新（242 名）、猶予（13 名）、資格辞退（5 名）を認定。
- 機構サブスペシャリティの放射線治療専門医について「放射線治療領域専門研修制度整備基準、第 2 版」「治療専門医整備規準の運用細則」が日本専門医機構により承認された。2022 年放射線科専門医認定試験合格者よりサブスペシャリティ領域の研修を 2022 年 4 月に遡って開始することが決定され、同カリキュラム申請を基本領域の放射線科専門研修プログラムの基幹施設の放射線治療部門の責任者が治療研修統括責任者として行うこととなった。施設への連絡、運用および審査に関して日本医学放射線学会と連携して検討・整備をおこなっている。サブスペシャリティ領域の放射線治療専門医認定・更新について機構より規約が提示され委員会で検討をおこなった。

- 日本医学放射線学会が開催する ICT-WG に委員会よりメンバーとして参加し専門医研修および更新、単位認定のシステム運用に関する情報収集と検討に加わった(2021/9/30、2022/10/21、2021/11/24、2022/1/18、2022/2/21、2022/3/23、2022/5/26、2022/6/22、2022/7/25 (9/2 は 8 月開催予定分を延期) WEB 会議)。
- 第 35 回 JASTRO 学術大会に関しては、講習会「医療の質：治療」(放射線治療専門医(学会認定)の更新資格の必須講習)と、講習会「医療安全・放射線防護」、「医療倫理」(放射線治療専門医・診断専門医(学会認定)の更新資格の必須講習と専門医機構共通講習との単位併用可)の講師候補を選出して、JRS 教育委員会に推薦、「指導者講習会」の講師と座長を、JRS 専門医制度委員会に推薦した。第 82 回日本医学放射線学会総会に関しては、講習会「医療の質：治療」の講師候補を JRS 教育委員会に推薦した。
- がん医療エキスパート育成事業運営会議(日本癌治療学会)に委員を派遣し、e ラーニングのコンテンツの更新(放射線治療計画総論・高精度放射線治療、脳腫瘍に対する放射線治療)を決定し、それぞれの講師、監修を選出して推薦した。
- 厚労省科研費補助金(がん対策推進総合研究事業)「放射線療法の提供体制に資する研究」(大西班)アンケート作成に関する検討をおこなった。

■ データベース委員会(委員長：中村 和正)

- 構造調査
 - 2019 年分の構造構造調査の集計を行い、報告書の公開準備を行った。
 - 次期構造調査のシステム改修を行った。
 - ※次期構造調査は以下の日程で行う。
 - [次期事業：構造調査(2021 年分)：2022 年 9 月 20 日(火)～11 月 30 日(水)]
 - 放射線治療症例数の推移の予測を行った。
- 症例登録(JROD)
 - 2021 年度調査報告書(2020 年分)を作成した。
 - ※次期症例登録は以下の日程で行う。
 - [次期事業：症例登録(2021 年分)2022 年 9 月 20 日(火)～11 月 30 日(水)]
 - 2022 年の調査についてはシステム改修を行った。
- 放医研との共同研究契約
 - 今年度も継続して共同研究を行った。
- 放治コード化 WG
 - 引き続き、コード化について検討を行った。
- 医療情報標準化推進協議会
 - 協議会に DB 委員会より参加した。

■ 医療安全委員会(委員長：青山 英史)

- 当該施設から依頼があった医療事故第三者評価(過少照射)について、関連メーカー、当該施設へのヒアリング等を実施し、調査報告書を作成・提出した。(作業期間 2021 年 3 月～2022 年 5 月)

- 「放射線治療部門の品質保証・医療安全の Quality Indicator を用いた Web 解析システム」により調査を実施した。
- 日本被ばく研究情報ネットワーク (J-RIME) 診断参考レベル (DRL) ワーキンググループの委員として、2 名を選出した。

■ 学術委員会 (委員長：青山 英史)

- 2022・2023 年度研究課題を募集し、応募のあった 2 課題を評価し、評価の高かった 2 題を理事会へ推薦した。(審議 2022 年 3 月)
- 2020・2021 年度採択の 3 課題の中間評価を行い、理事会に答申後、研究代表者に通知した。(審議 2021 年 11 月)
- 2019・2020 年度採択の研究課題 2 題の最終評価を行い、理事会に答申後、研究代表者に通知した。(審議 2022 年 2 月)
- 「日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) 会員に対するアンケート調査・調査研究実施 内規」について理事会で審議し、今後は専務理事で扱う事項として進める方向とした。
- FARO research committee からの学術委員推薦の依頼を受け、理事会での審議を経て (2022 年 8 月)、6 名の推薦を行った。次年度以降は FARO research committee 関連の業務も同委員会で扱うものとする。

■ 賞等推薦委員会 (委員長：有賀 久哲)

- 2022 年梅垣賞・阿部賞の審査を行い、該当者を理事会に推薦し、決定した。
- 2022 年ゴールドメダルの該当者を理事会に推薦し、決定した。
- 2022 年名誉会員の該当者を理事会に推薦した。
- 放射線治療振興基金助成事業 (柄川基金) を原資として、地域貢献賞を新設した。2022 年地域貢献賞の審査を行ない、該当者 (2 名 1 団体) を理事会に推薦し、決定した。また、柄川名誉会員へのご貢献に対し、特別感謝状への推薦を行い、決定した。
- 賛助会員 [㈱日立製作所] への感謝状を推薦し、決定した。
- 関連 5 団体からの顕彰事業に関して、募集周知及び審査を行ない、2022 年日本医師会医学研究奨励賞候補者、第 31 回日本医学会総会奨励賞候補者を理事長に推薦した。
- 梅垣賞・阿部賞の公募内容の審議、次年度よりの副賞増額 (阿部賞 50 万円、梅垣賞 30 万円) を提案し、理事会の承認を得た。

■ 国際委員会 (委員長：永田 靖)

- アジア放射線腫瘍学連盟 (FARO) の 2022 年からの新役員について、当会より FARO 事務総長: Secretary General 永田国際担当理事を推薦、Deputy Secretary General 小澤修一委員、Leadership development program committee chair 田巻倫明委員、Council member: 茂松理事長、宇野専務理事、Education committee member: 内田教育担当理事、川村麻里子会員、Research committee member: 青山学術担当理事、打浪雄介会員、Scientific committee member: 大野渉外・関連学会担当理事、久保亘輝会員、Leadership development program committee member: 溝脇がん放射線治療推進委員長、中村聡明会員

を推薦し、選任された。また、FARO 事務局員雇用を国際委員会より援助し、第 6 回 FARO 大会を 2023 年 10 月に韓国で開催するための準備を行った。

- IAEA が主導する International Radiation Oncology Network (IRON) 世界放射線腫瘍ネットワークの結成に向けての会議が WEB で開催され基本合意された。
- 2022/11/10-12 に広島で開催された JASTRO にて併催される ESTRO-JASTRO セミナー（テーマ：粒子線治療）に座長と講師を推薦した。2023 年に ESTRO で併催される JASTRO-ESTRO セミナーのテーマと講師を推薦した。
- ASTRO との MOU 原案を作成し、協議を進める予定である。
- 第 8 回日本・台湾放射線腫瘍学シンポジウム（広島、2021 年 5 月 22 日）は中止となり、改めて第 8 回台湾-日本放射線腫瘍学シンポジウムを 2023 年台湾にて開催することを合意した。
- 第 11 回日中韓合同シンポジウム（2022 年中国）は中止され、2023 年韓国がホストとして開催される。
- IASLC との関係において、本年は WCLC（世界肺癌会議）が 2022/8/4-7 にウイーンで現地開催された。
- Asia Oncology Society (AOS) は、2022 年の韓国開催、2023 年の日本開催に向けて、協力してゆくことにした。
- 高橋信次シンポジウムについては、2023 年春に日本高精度外部照射部会と併催される予定である。

■ 用語委員会（委員長：有賀 久哲）

- JASTRO 略語集の改訂作業、用語集・略語集の整合性確認作業を行なった。パブリック・コメントを実施後、最終確定版の理事会承認を得て、学会ホームページに公開した。
- JASTRO 用語集・略語集ウェブ・サイトの改訂に予算を計上し、検索ページの機能強化を審議した。改訂案に対する理事会の承認を受け、学会ホームページに反映した。
- 用語統一、掲載内容などに関する会員の要望を受け付けるフォームについて検討した。
- 2021 年度日本医学会用語委員会に出席し、優性遺伝、劣性遺伝についての推奨用語（顕性遺伝、潜性遺伝）等について審議した。

■ 粒子線治療委員会（委員長：櫻井 英幸）

- 2021 年 10 月 1 日、2022 年 2 月 7 日、2022 年 4 月 16 日、2022 年 6 月 13 日に粒子線治療委員会を web にて開催した。
- 部会に臓器別ワーキンググループの作成を指示し、次回診療報酬改定に際しての先進医療会議提出資料の作成について対応した。
- 粒子線治療に関する医療評価技術提案書の作成を行った。
- 先進医療の定期報告書を作成した。
先進医療会議からの質問に対して、厚労省の担当者と打ち合わせを行い、回答書を作成・提出した。
先進医療会議資料（エビデンス・評価解析）を厚労省へ提出し、2022 年 1 月、5 つの適応症が「十分科学的根拠あり」その他は「一定の科学的根拠あり」と評価され、保険適用、先進医療 A 又は B 継続の整理を実施し、保険適応となる疾患等を整理した疾患別統一治療方針の学会ホームページ更新を行った。
- 先進医療実施施設への施設訪問を行った。
- 粒子線治療成果論文を、JRR 特集号として発刊する企画を検討した（次年度発行予定）

■ 医学物理士委員会（委員長：大野 達也）

- 厚生科研「放射線療法の提供体制に資する研究（研究代表者：大西理事）」に委員会として協力し、放射線治療専門医を対象とした物理技術専門職に関するアンケート調査を実施した。
- 依頼により、医学物理士の今後のあり方に関して関連団体（日本医学放射線学会、日本医学物理学会、日本放射線技術学会、日本医学物理士会、日本診療放射線技師会、放射線治療品質管理機構、日本放射線治療専門放射線技師認定機構、医学物理士認定機構）と意見交換を行った。

■ 健保委員会（委員会：大西 洋）

- 令和4年度（2022）診療報酬改定に関わる諸作業を行い、提出した。
- 令和6年度（2024）診療報酬改定に関わる作業を開始した。
- 診療報酬改定に関連した調査や対政府交渉を行った。
- 会員からの健保に関する質問事項に回答した。
- 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「放射線療法の提供体制に資する研究」（研究代表者；大西会員）を全面的に推進した。
- 特定資金事業「放射線治療費用対効果分析事業」の実施に向けた契約等の準備を行った。

■ 渉外・関連学会委員会（委員長：大野 達也）

- 当学会第34回学術大会の発表演題の中から、他領域関連学会の発表候補者（助成対象者）を選出し、発表者に補助を行った。
- 「JASTRO 共催・協賛・後援等の依頼等に関する取扱規程」を作成した。
- グロッシェー国際原子力機関（IAEA）事務局長による放射線がん治療に関する講演会を日本核医学会、日本医学放射線学会及び当学会共催で開催することに関し、審議を行った。
- 依頼により、日本放射線影響学会第65回 JRRS-JASTRO 合同シンポジウムにおける JASTRO 側オーガナイザーとして岩田宏満会員を推薦した。
- 依頼により、第5回日本腫瘍循環器学会の共催シンポジウムにおける JASTRO 側オーガナイザーとして神宮啓一会員を推薦した。

■ 施設認定委員会（委員会：小川 和彦）

- 2021年（第6回）施設認定申請の42施設（新規：17施設、更新：25施設）について審査および合否判定を行った。
- 新規認定施設をホームページに追加掲載した。
- 認定施設として適格性を欠くに至った施設についての審議・対応を行った。
- 2022年（第7回）JASTRO 認定施設の新規申請ならびに更新申請の受付を行った。
- セキュリティを考慮し、施設認定アンケートシステム“LimeSurvey”のバージョンアップを実施した。

■ 緩和的放射線治療委員会（委員長：高橋 健夫）

- 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）「がん治療における緩和的放射線治療の評価と普及啓発のための研究」（研究代表者；茂松会員、研究分担者；高橋会員、大西会員、白土会員、鹿間会員、

中村会員、原田会員、渡辺会員)を本委員会として、研究支援した。本研究で作成した緩和的放射線治療に関する成果物を JASTRO ホームページに掲載した。

- 日本放射線腫瘍学会第 34 回学術大会において、JASTRO と日本緩和医療学会による合同シンポジウム「先行施設に学ぶ 骨転移がんボードの上手な進め方」が開催され、座長を江島泰生会員が務め、JASTRO 側の講演として窪田光会員が発表した。
- 日本放射線腫瘍学会第 35 回学術大会における緩和的放射線治療に関するシンポジウムの企画を行った。
- 緩和ケア関連団体会議(2021 年 12 月 16 日・2022 年 7 月 11 日 Web 会議)に出席し、緩和ケアに関する情報共有を行った。
- 「がん診療における緩和的放射線治療の積極的な活用に向けて」の提言書を作成し、JASTRO ホームページに掲載した。
- 2022 年 1 月 14 日開催の厚労省がんの緩和ケアに係る部会にて「緩和的放射線治療 現状と充実の必要性」について報告した。
- 厚労省がんの緩和ケアに係る部会において、がんの緩和ケアに関する資料「痛みへの対応について」の作成、ならびにがん診療連携拠点病院要件の見直しに協力した。
- 第 27 回日本緩和医療学会学術大会において、JASTRO と日本緩和医療学会による合同シンポジウム「緩和的放射線治療をがん患者に届ける～現在の課題と打開策について～」が開催され、JASTRO 側の座長を高橋健夫会員が務め、JASTRO 側の講演として鹿間直人会員、中村直樹会員が発表した。
- 厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)「放射線療法を提供体制構築に資する研究」(研究代表者;大西会員、研究分担者;高橋会員)に本委員会として研究支援した。
- 厚生労働省科学研究補助金(がん対策推進総合研究事業)「がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践 および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究」(研究代表者;里見絵里子、研究分担者;高橋会員)を本委員会として研究支援の準備を行った。
- IAEA の緩和的放射線治療トレーニングコースを本委員会として支援準備を行った。

【管理部門】

- **倫理委員会(委員長:高橋 健夫)**
 - 役員等の利益相反自己申告書の審査を行い、問題のない事を確認した。
 - ガイドライン策定にかかる参加者の COI 自己申告書」における経済的 COI・アカデミック COI の表示例を検討し改訂を行った。
 - 「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン」に関するQ&Aの更新について会員に周知した。
- **規約委員会(委員長:石倉 聡)**
 - 部会通則案について審議した。
 - 共催・協賛・後援の取扱規程案について審議した
 - 地域貢献賞規程案について審議した

■ 財務・総務委員会（委員長：宇野 隆）

- 会員の入会動向・審査の取りまとめを行った。
2021年度予算を執行し、決算案をとりまとめた。2022年度予算案を各委員会の事業計画と予算要求に基づいて作成。また、理事会承認案を内閣府に申請した。
- 次年度新規予算・事業について、各委員会より提出された企画書（見積含）を、当委員会にて審査し、承認された案件のみ理事会審議にかける手順変更を実施する計画を検討した。
- 特定費用資金準備金の計画変更案を、理事長を補佐し、担当理事と共に作成した。
- COVID-19対策アドホック委員会、コロナ対策実行グループの活動報告として「JASTRO COVID-19対策 2年間のまとめ」を発行した。
- 「弔事・弔慰金に関する規定」を作成し、会員専用HPに掲載した。
- 各部会規約より共通部分は「部会通則」、各部会独自部分は「部会規約」として、規約委員会と共に、案を作成し、各部会に案を提案した。（各部会、理事会承認を経て、2023年9月より施行承認）
- 各イベント（セミナー・学術大会）における契約書を「業務委託基本契約書」（理事長・委託会社間）と「個別契約書」（世話人・委託会社間）に分けて締結する案を作成・実施した。
- サイバー攻撃への対策のため、「業務委託基本契約書」に、情報セキュリティ確保遵守事項を追記し、委託会社へ情報管理の徹底を依頼した。また、個人情報等受け渡しセキュリティ強化のため、当会独自サーバーファイルサーバーを設定した。
- 代議員提案事項の募集を行った。

■ 将来計画委員会（委員長：茂松 直之）

- 2021年9月2日に参議院議員 自見はなこ先生 衆議院議員 堀内のり子先生とオンラインにて面談し、放射線治療の適切な普及について議論を行った。（茂松委員、宇野委員、大西委員）
- 厚労省主催「がん対策推進協議会」（2021/10/7、12/3、2022/3/16、4/28、6/30）委員として、継続参加した。（代表 茂松委員）。
- AI（人工知能）ワーキンググループ（WG長：永田靖委員）を組織し、まずは実験的に肺癌症例の臨床・画像データ収集のデータベース構築のための準備を進めた。
- その他、各事業活動について、委員会、理事会での議論を受け、将来展望を検討した。
- 代議員立候補要件・役員選任要件等見直しを検討するワーキングを立ち上げることが承認された。（大西委員）

【部会】

■ 小線源治療部会（担当理事：櫻井 英幸 / 部会長：生島 仁史）

- 小線源治療部会会員数：541名。
- 小線源治療部会第24回学術大会を、青木学世話人の元、2022年5月20～21日コングレスクエア日本橋にて実施（参加者：202名[有料162名、招待・関係者40名]）した。
- 小線源治療技術教育を目的とした小線源治療ハンズオンセミナー（教育委員会との共催）を新規事業として企画し準備を行った（第1回：2022年11月26日京都にて開催予定）
- 小線源治療部会ガイドラインに基づく密封小線源治療診療・物理QAマニュアル第2版を発刊した。

- ¹²⁵I 線源強度計測に関するアンケート調査結果を元に、ガイドンスドキュメント作成等の準備を行った。
- ⁶⁰Co 線源強度計測のトレーサビリティ確立のために、使用施設における線源強度測定を実施した。
- 4つの部会共通（役員規定等）の部会通則の新設と、それに伴う「部会規約」を審議・改訂し承認した。
(2023年9月より施行)

■ 生物部会（担当理事：秋元 哲夫 /部会長：三浦 雅彦）

- 生物部会会員数：470名
- 第59回生物部会学術大会・第50回放射線による制癌シンポジウムを、北海道大学 稲波修世話人の元、2022年6月24～25日、ハイブリッド（札幌市民交流プラザ+WEB配信）開催した。有料参加者143名。
- 第12回放射線生物学セミナー（テーマ：基礎から学ぶ「放射線生物学と量子生命科学」）を、教育委員会との共催にて、岐阜大学 松尾政之世話人の元、2022年2月12日、オンライン開催した。（オンデマンド配信：2022年3月1日～2022年3月31日）参加者163名（有料：135名、招待：28名）。
- 各ワーキンググループ（①放射線生物学セミナーWG ②学術WG ③広報WG ④トランスレーショナルリサーチ推進WG）において、活動を行った。[主な活動①上記参照。②Journal Clubにて、臨床に関連した放射線生物学的トピックスを扱った論文を2ヶ月に1回紹介。③関連学会の紹介を中心に放射線生物学研究の面白み、研究哲学等 News Letter に配信。④3年間の予定でTR推進WGメンバーを含めたTR実施基盤構築の班研究において、JCOG、JROSG等と連携し、立案・実施予定。放射線治療に対し exceptional response を示した腫瘍の遺伝子解析に関する多施設共同研究も開始予定。]
- 4つの部会共通（役員規定等）の部会通則の新設と、それに伴う生物部会規約、生物部会賞規約の改定を行なった。（新通則・規約は2023年9月1日就任手続きから適用）

■ 高精度放射線外部照射部会（担当理事/部会長：大西 洋）

- 高精度部会会員数：712名。
- 第35回高精度放射線外部照射部会学術大会を愛知県がんセンター古平毅世話人の下、2022年3月5日（LIVE）、2022年3月7日～4月11日（オンデマンド）WEB開催した。参加者は906名。（名誉会員・賛助会員等：72名含む）
- SBRTとIMRTを統合した新システムを用いた実態調査アンケートを実施し報告書をまとめた。
- 部会の分科会として2022年6月25日（土）千葉大学 宇野隆世話人の元、第1回日本MR画像誘導適応放射線治療研究会をステーションコンファレンス東京にて開催した。参加者：86名〔有料：81名、無料参加者 学生他：4名、招待・関係者1名〕
- 第36回学術大会は秋元哲夫世話人の下、2023年3月3日・4日（千葉）、特定資金事業：第7回高橋信次記念シンポジウムと併催することを決定した。
- 4つの部会共通（役員規定等）の部会通則の新設と、それに伴う「部会規約」を審議・改訂し承認した。（2023年9月より施行）

■ 粒子線治療部会（担当理事/部会長：小川 和彦）

- 2021年10月1日、2022年2月7日、2022年4月16日、2022年6月13日に、粒子線治療部会をwebにて開催した。

- 委員会からの指示を受け、臓器別ワーキンググループを作成し、先進医療会議への提出資料の作成を行った。
- 先進医療 A に関する、施設訪問調査を行った。
- 4 つの部会共通（役員規定等）の部会通則の新設と、それに伴う「部会規約」を審議・改訂し承認した。（2023 年 9 月より施行）